



おおやま

発行・編集:平成29年12月22日発行 北海道紋別養護学校PTA広報部

『祝・おおやま広報誌 100号～平成30年に向けて』

発行100回目、ありがとうございます。

保護者の皆様、後援会の皆様、諸先生方、日頃より感謝申し上げます。

平成29年度PTA副会長



岩淵 雅美 さん

4月に進学、進級してから2学期終了まであっという間に感じますね。見学旅行、研修旅行など親は心配もあったと思いますが、無事終えて保護者の皆様はお子さんの成長を実感されたと思います。

各学部1年生の皆さんは、新しい環境になり、日々の学習や作業や行事、現場実習など初めてながらも一生懸命取り組んでこられたことと思います。

今年の学校祭は、「ゆめみよう・かなえよう・ぼくらのちからで」をテーマに各学部ステージ発表、販売など自信をもって発表していました。そしてフィナーレは、よさこいを披露してくれ、みんなで力を合わせて練習の成果を見せてくれました。とても素晴らしかったです。

年が明けると3学期、残り少ないですが、冬の季節の活動を楽しみながら元気に過ごしてほしいと思います。

『卒業後は自分次第』

「おまえは、本当はやればできるんだけど・・・」私がか子どものころ、担任の先生や親によく言われた言葉です。「その時だけできても、継続できなければ、できたことにはならない」という意味かなと思います。あのときもっと努力をしておけばよかったとつくづく後悔します。

在学中は、学校や寄宿舎の先生が注意してくれます。卒業すると「うるさく注意してくれる人」はそばにはいません。それを「ラッキー」と思うか「残念」と思うかは、本人次第です。コーヒーのコマーシャルに「怒られていると思うか、教えてもらっていると思うかは、自分次第だ」というセリフがありました。

なかなか名言だと思います。

紋別養護学校の生活は、長い人生の中のほんの一瞬でしかありません。人生80才として、残り60年間は、どこかで自分の力で暮らしていくことになります。やらなければならないことを自分の意志で続けていかなくてはなりません。社会人になったら急にできるものではありません。卒業までの日々をどう過ごせばよいか家庭で話し合っ、できることからトライしてみてください。私のように悔いを残さないために。

北海道紋別養護学校 校長



久保 了乙

宿泊を伴う学習の様子

～宿泊研修・見学旅行～

小学部 5・6 年生 ・ ・ 雄武方面(9/21～22)

中学部 1・2 年生 ・ ・ 遠軽方面(9/7～8)

高等部 2・3 年生 ・ ・ 東京方面(10/3～6)

◎各学部の宿泊を伴う学習の様子を担当の先生に聞きました！

小学部 5・6 年生

「宿泊研修の思い出」

今年度の宿泊研修は雄武方面で実施し、二日間天候にも恵まれ予定どおり学習を進めることができました。一日目はパン作り体験を行い、普段できない体験に目を輝かせながら活動に取り組む子どもたちの姿が印象的でした。ホテルでは公衆電話を使って家族に元気で過ごしている声や頑張ったことなどを自分で報告しました。また、家族と初めて離れて宿泊することとなりましたが、しっかりと自分の身のまわりのことをすることができていました。初めての経験が多く緊張感がありながらも楽しみ、友達と一緒に公共

交通機関の利用や体験活動を終えることができました。この宿泊研修で経験した、

パン作りでのパンの感触やみんなで歩いた遊歩道で汗をかくて疲れたこと、温泉
が広くて温かくて気持ち良かったことや電話から聞こえてくる家族の声に安心したことなど、たくさんの思い出を生活の糧としてより一層学校生活が素敵な時間となっていくことを願っています。

文責：外川



中学部 1・2 年生

「宿泊研修の思い出」

生活単元学習での事前学習を始めたばかりは、不安な気持ちもありましたが、学習が進むにつれて気持ちの準備もでき、本番に挑みました。

1・2 年生は9月7～8日、1泊2日で遠軽方面へ宿泊研修に行きました。出発前から楽しみにしていた1・2 年生6人は2日間とも元気に活動を頑張りました。

1日目は、サンコロネでパン作り体験をしました。初めて体験する生徒ばかりでしたが、しっかりと施設の方の話を聞いて上手にパンを作っていました。とてもおいしいパンができあがりしました。その後は買い物学習、ちゃちゃワールドへ行きました。夜はマウレ山荘のコテージで宿泊。コテージでの過ごし方もしっかりとマナーを守っていました。

2日目はいこいの森でSL 乗車体験。迫力あるSLの汽笛に大喜びでした。行き帰りのバスでも公共交通機関のマナーも守り、学習の成果を十分に発揮できた2日間でした。

また、後日行われた中学部で学習のまとめ発表会では、2日間の宿泊研修をしっかりとまとめることができました。行事を通してまた一段と成長した姿がみられました。

文責：松本



高等部2・3年生

「見学旅行の思い出」

10月3日（火）から3泊4日の日程で東京方面へ見学旅行に行きました。初日の飛行機の中では全員が落ち着いて乗ることができました。2日目は1班と2班に分かれて行動しました。1班は紋別では体験できない、電車や地下鉄に乗って東京駅や秋葉原の街を散策しました。2班は大型バスに乗って日本サッカーミュージアムなどを見学しました。3日目は全員で東京ディズニーランドに行き、パレードや乗り物を楽しみました。楽しさのあまり、当初予定していたホテルへの帰りも、少し遅らせ時間いっぱい楽しむことができました。家族や自分へのお土産なども、今までの学習の成果を生かして、しっかりと買い物をすることができていました。事前学習で学んだ飛行機の搭乗の仕方や、機内でのマナー、公共施設での約束などの成果を十分に生かして楽しい、思い出に残る見学旅行になりました。今回の貴重な体験を残りの学校生活に生かしていきたいと思います。

文責：林



PTA活動報告

様々な PTA 事業が1年をとおして行われています。今回は、8月に東川養護学校で行われた、「北海道特別支援学校知的障がい教育 PTA 連合道北地区大会」、10月に帯広民文化ホールで行われた「第52回北海道特別支援教育振興大会 第42回北海道特別支援教育関係PTA研究大会 第17回合同大会」での活動をご紹介します。

『卒業後の地域生活を考える』



安永 洋子

8月25日、北海道特別支援学校知的障害教育 PTA 連合会道北地区大会が東川養護学校で行われ、参加してきました。美瑛デイセンター所長を講師に、11校からの参加で会場は満員になり、活気のあるものでした。

各学校の PTA 活動なども紹介されており、「高等部卒業までにやっておかなければならないと思うこと」と題して3項目に分けて現状と改善点を各学校と保護者から発表されていました。特に「保護者が本人の世話をできなくなった時を想定し、将来自立を促す手立てについて」の項目では、私自身、娘が3才で診断を受けたときから、片時も頭から離れることが無いくらい、思い続けていることでした。各々で思いはあると思いますが、ゆっくり成長していく子どものペースに合わせて、例えば、映画を見たり、お小遣いで買い物をしたり、おしゃれをしたり、旅行に行ったりと様々な経験をして、人生を楽しんでほしい思いもあります。

同時に、必ず来るであろうその時に向けて、着々と準備を進めていきたいと思いました。子どもの意志や生き方を尊重しながら、地域で安心して暮らせることを心から願っています。

学校側も保護者の想いに寄り添って、全力でサポートしてくれるはずです。将来の生活を思い描き、本人の気持ちを汲み取り、具体的に提示し、支援を求めることができる機関との繋がりをもつことの重要性をしっかりと理解することが大事だと思いました。

『子どもたちの将来に向けてできること』

坂根 憂一

10月14日、15日に、「第52回北海道特別支援教育振興大会 第42回北海道特別支援教育関係PTA研究大会 第17回合同大会（十勝大会）」が帯広市を会場に行われました。今回は「障がい児・者の豊かな学びと社会参加を求めて～豊かに学び生きがいのある生活を実現する支援の在り方～」をテーマに、分科会や講演会などが行われました。

地域の方と協力して交通安全運動を行った事例や、演劇部の活動を自治体に支えてもらった事例など、各学校での様々な PTA の取り組みが紹介されました。また、自治体で取り組んでいる就労支援システムについても紹介され、学校と地域が協力して、子どもたちの将来について考えていくことが大切だと感じました。



【編集後記】

最後までご覧いただきありがとうございます。今学期号も保護者の皆さまからのご協力があり、発行することが出来ました。PTA 活動の一つとして年間をとおして「意見箱」を児童生徒玄関に設置しています。児童生徒がよりよい学校生活を送れるように学校全体として取り組んでいくためにも今後もご協力をお願いいたします。なお、広報誌へのご意見は PTA 広報部までご連絡ください。

PTA 広報部 中川